

TAC対象以外の広域重要魚種の資源管理に向けた整理表

魚種名	系群	制度上の条件等							課題
		①漁獲量 (順位)	②資源状況		③外国 漁船によ る漁獲	④科学的知見		⑤高度 回遊性 魚類また は遡河 性魚類	
			水準	動向		ABC算定	資源量 算定		
カタクチ イワシ	太平洋	3位	中位	減少	—	○	○	—	○カタクチイワシとシラスを分離した漁獲管理に技術的課題 ○系群ごとに異なる漁業実態 ・太平洋:漁獲の大部分はカタクチイワシ ・瀬戸内海:漁獲の半数近くはシラス(カタクチイワシ(成魚)より高価) ・対馬暖流:シラスの漁獲はカタクチイワシの10分の1(シラス主体の県も)
	瀬戸内海		中位	横ばい	—				
	対馬暖流		低位	減少	○				
ホッケ	根室海峡～胆振	10位	低位	減少	—	○	—	—	○漁獲のほとんどを占める道北系群について実施されている資源管理措置(H24～27、漁獲量または漁獲努力量を3割削減)の効果を検証 ○いずれの系群も資源量に基づかずにABCを算定 ○ほとんどが北海道周辺海域で漁獲される特徴
	道北		低位	減少					
	道南		低位	減少					
ブリ類	—	11位	高位	増加	—	○	○	—	○漁獲の約4割を占める定置網では魚種選択性が低く漁獲管理の実効性に技術的課題
ウルメ イワシ	太平洋	15位	中位	横ばい	—	○	—	—	○太平洋系群では資源量に基づかずにABCを算定
	対馬暖流		中位	増加			○		
マダラ	北海道	21位	高位	増加	—	○	—	—	○北海道系群及び日本海系群では資源量に基づかずにABCを算定
	太平洋北部		高位	増加			○		
	日本海		高位	横ばい			—		

注1:①漁獲量はH20～24年の5年平均値。

(制度上の条件)

○ 事務次官依命通達

以下の基準のいずれかに該当するものであって、漁獲可能性を決定するに足るだけの科学的知見が蓄積(④)されているもの。

① 漁獲量(順位)

採捕量が多く、国民生活上又は漁業上重要な海洋生物資源

② 資源状況

資源状況が悪く、緊急に漁獲可能性を決定すること等により保存及び管理を行うことが必要な海洋生物資源

③ 外国漁船による漁獲

我が国周辺海域で外国漁船による漁獲が行われている海洋生物資源

○ 制度の趣旨に鑑み、高度回遊性魚類(カツオ・マグロ類)または遡河魚類(サケ・マス類)を除外(⑤)